

(認定)宝塚NPOセンター
平成25年度事業報告書

ご挨拶

新しい時代の課題でもある少子高齢化の社会における若者支援の取組の一端を「地域若者サポートステーション事業」としてその役割を宝塚 NPO センターも担わせていただきました。人口構成における若者の比率が減少する危機的な日本の状況が経済社会に暗い影を落としていることは周知の事実ですが、働く人びとのうちおよそ3分の1に当たる人口が非正規雇用で、不安定な立場におかれています、改善されるどころか、ますます失業や半失業の温床になっていることは許されないことと言わなければなりません。私たちは微力ながらも就労支援や就職支援を通じて、若者の社会参加への支援をしてきました。若者が就業できることが社会に受け入れられる第一歩だと信じて、引き続きサポート事業に力を注いでいきたいと思っております。

また、本年度からは宝塚市立勤労市民センターの運営管理を任せられることになりました。当施設の指定管理者として建物の保守管理だけでなく、宝塚 NPO センターが理念としています「市民活動の交差点」の拠点の一つとなれるよう市民の皆さんと一緒にになって企画を練り、皆さんの主体的な参加を得て交流事業を推進したいと願っております。

宝塚 NPO センターが中間支援組織として NPO の皆さん、ボランティアの皆さん、それから市民活動につながる様々な団体や市民組織の人びとと交わり、そして、社会に貢献したい、地域に貢献したいと願う人たちの夢と希望を紡いで行きたいと思います。

認定 NPO 法人 宝塚 NPO センター 理事長 牧里毎治

新たなはじまり



宝塚地域若者サポートステーション

厚生労働省より認定を受けて 「私たちの取り組み」

平成25年度から、宝塚NPOセンターが厚生労働省より認定を受け、新たに『宝塚地域若者サポートステーション（通称：ヅカサポ）』事業がスタートしました。ヅカサポでは、おもに15～39歳の若者（学校卒業・中退後、または離職後、無業の状態にある方）の職業的自立を、宝塚NPOセンターの特性を活かし、関係機関や学校、地域とネットワークを構築しながら、本人やそのご家族を支援します。

一人でも多くの未来を担う若者が、自信を持つて社会に参加していくよう、スタッフ一丸となっての支援活動が始まり、本年度 5月17日を以て、開所から1年が経とうとしています。私たちはこの1年間、たくさんの方々に関わらながら、様々な事に取り組んでいきました。

能力UPのための講座・セミナー 「人とのつながり」

ヅカサポを利用する多くの若者からは、「ミニユニケーションが苦手、働くことや仕事に関する知識が少ない、とにかく不安」という声をよく聞きます。そこで私は、様々な悩みに耳を傾けながら、コミュニケーションレーションレッスンや、PC講座、はたまた皆で身体を動かす、など多岐にわたり講座・セミナーを実施しました。

講座・セミナーを通して感じたことは、ヅカサポに通う若者は、「日々変化する」ということ。ほんのわずかですが、講座前と講座終了後では表情、顔つきが変わります。不安な面持ちで参加していた若者も、終わった後には達成感や充実感、良い疲れを感じ、スッキリとした表情を見せてくれます。



若者たちがソリオ夏祭りにボランティア参加



宝塚市(有)丸眞商会へ職場見学

多くの講座・セミナーは、私たち「カサボスタッフ」で実施しています。しかし、私たちだけでは補いきれない部分もたくさんあり、外部の方の力を借りし、実現した講座・セミナーもたくさんありました。例えば、人生経験豊富な方から、現在の仕事に就くまでの経験曲折のお話を聞いていたり、様々なジャンルで活躍の講師をお招きし、マイクやマネー講座、ウォイスレッスン、リフレッシュでヨーガ教室、保護者に向けたセミナーなどを実施しました。

また、実際に働く現場を見るなどして、仕事に対するイメージを膨らませてもらおうと、職場見学を企画。見学を快く受け入れてくださる企業を探し、年間を通して5カ所の職場見学を実施することが出来ました。

これらの講座・セミナーはすべて、「たくさんの人への助け」、「人と人とのつながり」があつてこそ実現したものでした。

ボランティア・イベント ～人との関わりで自信をつける～

講座・セミナー以外にも、「生」の字修復ボラン

ティアや灯籠作り、ソリオ夏祭りなど、地域のイベントにも若者を受け入れていただきました。コミュニケーションが苦手でも、与えられた仕事に真摯に取り組み、夏祭りでは、来店する小さな子どもたちに合わせ、臨機応変に膝についての接客をしたりと、イベントに参加し、人と関わることによって、私たちは彼らの意外な一面を見ることができました。また、彼らも今まで気づかなかつた能力を引き出すことが出来たのではないでしょうか。

また、昨年12月には「ジカラサボアート展示会」と

多くの講座・セミナーは、私たち「カサボスタッフ」で実施しています。しかし、私たちだけでは補いきれない部分もたくさんあり、外部の方の力を借りし、実現した講座・セミナーもたくさんありました。例えば、人生経験豊富な方から、現在の仕事に就くまでの経験曲折のお話を聞いていたり、様々なジャンルで活躍の講師をお招きし、マイクやマネー講座、ウォイスレッスン、リフレッシュでヨーガ教室、保護者に向けたセミナーなどを実施しました。

また、実際に働く現場を見るなどして、仕事に対するイメージを膨らませてもらおうと、職場見学を企画。見学を快く受け入れてくださる企業を探し、年間を通して5カ所の職場見学を実施することが出来ました。

これらの講座・セミナーはすべて、「たくさんの人への助け」、「人と人とのつながり」があつてこそ実現したものでした。

一人一人に寄り添い、新たなステージへ ～社会への旅立ち～

様々な講座・セミナー、イベント等を実施しま

したが、若者を社会へ送り出す為には、日々来所者と真摯に向き合つことが求められます。

これまで90名の方が進路を決め、社会に飛び立ちましたが、そこにたどり着くまでにはたくさんの悩みや不安を乗り越える必要がありました。

過去の辛い経験を受け、社会に出ることに対しても不安を持つ者、「人と上手く話したいのに緊張してしまう者」、「心配や不安を抱える者」、「これまで話せず、むづかしい思いをする者」、「これまで働いた経験がなく、漠然とした不安を抱き続け動けない者」など、抱える想いは一人一人違います。

しかし、このままではいけない、この現状をどう

いつづ力サボならではのイベントを開催。

若者の中には「絵を描く事が好き」など、秘めた才能を持つ若者も多く、ぜひたくさん的人に作品を見てもらおう」ということで、実行委員を立ち上げ、企画から運営まで若者と一緒に行いました。

当日、若者自身が実際の仕事のようにシフトを組み、役割を分担し、来客された方に「コーヒーを振舞つたり、作品の説明をするなどしてもらいました。

1日限定の開催でしたが、70名以上のお客様が来場してくださり、お褒めの言葉をたくさんいただききました。また、出展者のご家族も見に来られ、少し照れくさい様な、でも誇りしげで嬉しそうな若者の姿が印象的でした。

普段なかなか自己主張が出来ない彼らにとつて、自分の作品をたくさんの方に見てもらおう、ボラン

ティアやイベントを通して人と関わる、という経験を通じて、少しでも自信をつけてもらえた

たうと思い、今年度も様々な企画を計画中です。

未来に向かって ～地域・社会全体で若者支援を～

私たちのこの一年、たくさんの若者に関わりながら、様々なことに取り組んできましたが、悩みを抱え、なかなか前に進めず、たち止まってしまう若者が、まだまだたくさんいるのではないかと思われます。私たちはそんな若者とその保護者の為に、これからもささやかながら支援の手を差し伸べていかなければならぬと思います。

しかし、前に進もうとする若者を応援していくには、私たちの力だけではなく、たくさんの「人・地域・社会の力」が必要です。

宝塚地域若者サポートステーションが開設して1年が経ち、2年目を向えようとする今日このとき。今後、さらに一人でも多くの若者を応援していくよう、私たち「カサボ」は「カサボらしく、人とつながりを大切にしながら、新たなことに挑戦し続け、未来に向けて歩んでいく」と願っています。

にかしたい、という想いから、勇気を持って「カサボ」に来所する若者がたくさんいます。その想いに耳を傾け、寄り添う事で、最初は涙を流していく若者も、次第に前を向くようになり、自ら動きはじめ、ステップアップし、最終的には次の新たなステージを見つけ、「カサボ」を卒業していきます。

一人一人に向き合う事はとてもしんどく、大変なこともあります。が、日々少しずつ変わっていく若者を見守り、来所当初からは考えられない程の晴れやかな顔つきで、社会へ旅立つ時に立ち会えることは、私たちにとって何よりも嬉しい、この仕事をやっていて恥がつたと思える瞬間です。

その他 この一年を振り返って

米倉誠一郎先生講演会

2013年4月16日、宝塚市男女共同参画センターにて、宝塚NPOセンター認定取得記念講演会が開催されました。講師は元一橋大学イノベーション研究センター長であり、現ハ本木アカデミー・ビルズ日本元気塾長、ブレシア大学 G-BIS 日本研究センター所長の米倉誠一郎氏をお招きし、「創発的破壊・未来をつくるイノベーション」をテーマに、熱意のこもったご講演をして頂きました。会場には総勢64名の参加者が集まり、我が国の現在、未来について熱く語られる先生のお話を真剣な眼差しで聞き、時には笑いも交えながら乐しくして大変意義のある講演会でした。特に、「必要なのは力こしマダラバクロフニシヨナル」「プロジェクトに根拠は要らない」などの言葉に参加者は感銘を受け、また、新しい発想の必要性を改めて感じた中で、今自分にできることは何か、一人一人の創発が、今後の日本に新たな可能性を生み出すことができるか再認識し、新しい一步を踏み出するための足がかりとなつた。



地域ネットワーク

所属している自治会「ソリオ宝塚自治会」の事務局を7年間持っています。NPO型で動くNPOは地域団体と一緒に地域づくりをめざすことを言われることが多いのですが、会計から総務まで会長と二人三脚で歩み、一緒に地域を作る仲間として住民の方や事業者の方に認めていただけてうれしいことは私たちの誇りです。

毎年、8月には地域の夏祭りの事務局も務めます。この夏祭りは、住民と事業者として婦人会・子ども会・私たちNPOセンターが参加し「協働」という言葉などを意識せずに互いに「あなたの呼吸」で実施するもので、祭りの後に皆で飲むビールの味は格別です。



寄付

平成 26 年 3 月末 16 年間の寄付金総額は 27,394,770 円となりました。

平成 25 年度の寄付金は 26 件 (19 個人・7 団体・企業) で 889,649 円の寄付を頂きました。

順不同、敬称略
宝塚男女共同参画センター連絡協議会
福間 則博
牧里 毎治
小池 由佳
佐藤 誠
中村 豪
山口 耕平
石田 隆章
ハツピーライフ福祉会
山添 合子
大濱 芳子
森本 樹
国際交流団体未来
久保 協一
鶴丸 悅二
川瀬 敏子
中山 修
菅原 美代子
バイカ王楽農会
橋田 てつ子
若林 雄一
小林 浩昭
山口 一史

GRASS ROOTS Creative Debate for

ボランティア

平成 25 年度のボランティア時間は 3,054 時間と昨年より若干減少しています。しかしこのボランティア時間は常勤職員の 1 年の労働時間に換算すると約 1.6 人分となり、無償役務を換算すると 230 万円の寄付に相当します。ボランティアの皆さんとの活動は欠かすことが出来ず、重要な活動の一部を占めていただいている。今後も多くのボランティアの皆さんとともに人が行き交う市民活動の交差点として活気あふれるセンターを目指したいと考えます。

ありがとうございました。

会員

平成 26 年 3 月末の会員数は 222 名 (法人会員:4 個人正会員:44 団体正会員:74 賛助会員:100) です。
今後も会員数の増加につとめます。



数字であらわす平成 25 年度の活動



皆さまのじ協力をいただき多くの事業に取り組み、私たちが目指す『安心して誰でも参加できる地域づくり』に向け前進でももしたこと、感謝申し上げます。

左記の数字の一つ一つには、それぞれ出会いや物語があります。生きがいじじとサポートセンター事業でシニアの起業や就労支援による仕事づくり、若者支援によるこれからの中間支援団体を担う人材づくり、市民活動支援による地域を担う活動者づくりを通じ、私たちは中間支援団体として「出会い」や「繋がり」から生まれる「皆が作つていく地域」を進めていきます。

名簿

一 法人会員:4

回生会
宝塚病院
ソリオ宝塚都市開発株式会社
生活協同組合「つづくべ」
株式会社 兵庫福祉保険サービス

一 個人正会員:44

(匿名希望4名)
和林野木名牧福藤田田鶴中中大足相相倉西清清菅吹森小小市山山佐高高江橋加遠座阿河
宏尻下取里間崎渕恭丸山政野田田橋村瀬水原曾田林畠谷寺村本本口藤松原守田健俊明典てつ美耶明子
敏昭俊道千每則麻由子悌光芳保茂英こ滋明勲幹美幸義浩麗敬耕健泰宏子子子子子子子子子子子子子子子
雄明則里治博里佳利二子子樹俊と樹子子代雄昭子美男一子子平ニ子子郎

一 団体正会員:74

人と人とのを結ぶ福祉の会ハローー宝塚
宅老所 光明の家
宝塚青年会議所
めふのお家
高齢者問題を考え行動する会
関西ウエルネス研究所
科学と市民社会のコミュニケーション
ソリオ宝塚自治会
宅老所 ろまん
ヒューマンサポート関西
日本災害救援ボランティアネットワーク
アリランはんしん
市民活動フォーラムみのお
れいんぼう
支援の会ひまわり
グループチャレンジ高齢者を支援する会
宝塚NISITANI
希望の家
くつろぎの家らぐ
オフィス・ナウ
緑と花と輝きのまちづくり
キッピーフレンズ
陽だまり
アイ・アイ宝塚
よつ葉会
情報センター—S—S大阪事務局
川西再発見
さり
ことじ
市民事務局かわにし
スマイルウェイ
おしゃれdeげんきに訪問ヘアカットサービス
ハッピーライフ福祉会
宝塚エルバイレFC
おでかけ支援隊
人間行動科学研究会
ともしび
さうい
アガペ甲山医学研究所
友愛こぶし
いきいきシニアゼミナー
ネパー・ヨードを支える会
ハートライフ福祉協会
ひょうご宝塚園芸福祉協会
C・キッズ・ネットワーク
関西アロマセラピスト・フォーラム
宝豊連
つどい場さくらちゃん
裸足の楽園
宝塚成年後見センター
丹波里山くらぶ
伊丹市土に親しむ会
日高共同作業所
そら
水道施設整備技術協議会
日中会計税務交流機構
断糖健康俱乐部
介護コミニティー咲咲館
よつば法律事務所
Career BAL 合同会社
新生「チカウンセラー起業支援協会心結
KIZUNA
エスリード宝塚自治会
トライサングル
GRASS ROOTS
日本レスキュー協会
Creative Debate for
国際交流団体未来
宝塚市花のみち自治会
川西市手をつけなぐ育成会
武庫川がっこう
アミーゴ
Happy Happy
ほつと宝塚子育てネットワーク

名簿

— 賛助会員: 100 —

黒木 雅子
岡田 泰子
掛水 すみえ
隈美智子
岡島 平三郎
山崎 尚美
久保 明子
久保下 多美子
比嘉 敏雄
大野 貞子
坂井 美智子
三戸 俊徳
直田 春夫
車田 清美
多胡 葉子
井上 芳子
上西 利二郎
大上 清
香村 道夫
木村 佳友
阪口 春彦
喜多 容子
山口 一史
越智 清光
和田 満里子
古田 時子
北川 洋司
谷川原 宇子
栗岡 和美

原啓 川口 章子 宮野 達子
立田 英雄 藤田 昭
川久保 雄介 藤津 忍
脇 安生 奥村 和恵
大橋 良子 森田 隆作
新福 泰雅 森田 隆作
大東 佐知子 森田 隆作
榎本 哲郎 森田 隆作
國下 透 宮本 由起代
田村 依子 宮本 由起代
島川 正行 宮本 由起代
沼田 肇子 宮本 由起代
金澤 喜八郎 山本 恵介
須藤 栄一 山本 恵介
大久保 幸雄 伊藤 寿子
鷺山 正夫 伊藤 寿子
山本 進 北山 辰夫
永井 弘行 伊藤 寿子
大谷 友比古 伊藤 寿子
望月 利恵子 伊藤 寿子

· 濱谷 富子 · 中川 康子 · 石原 朱実 · 山田 忠生 · 小林 和子
· 森川 滋 · 藤井 佳代子 · 村上 克己 · 佐伯 義信 · 石橋 さなえ
· 小副川 久代 · 河本 美代子 · 亀川 甲 · 森本 樹 · 小西 孝幸
· 阿部 一郎 · 岡田 俊明 · 戸田 和弘 · 安田 和弘 · 折戸 政男
· 宮脇 瑞穂 · 田中 誉人 · 粉井 芳子 · 金井塚 美根 · 山添 合子
· 福島 達夫 · 森脇 やすと · 中山 龍一 · 中山 実香 · (匿名希望11名)

(順不同、敬称略)

ありがとうございました。

参
画

委员会、审查会

- 兵庫県長期ビジョン審議会
宝塚市行政評価委員会
宝塚市労働問題審議会
宝塚市景観審議会
宝塚市協働のまちづくり促進委員会
宝塚市立地域利用施設等指定管理者選考委員会
社会福祉法人兵庫県共同募金会宝塚市共同募金委員会
阪神北県民局夢づくり応援事業審査委員会
伊丹市参画協働推進委員会
西宮市市民活動コーディネート事業受託者選定委員会
三田市まちづくり助成金審査委員会
コーブじもししひボランティア振興財団評議員
コーブじもししひボランティア振興財団助成部会運営委員
コーブじもししひボランティア振興財団第10期助成検討委員会

役員

理事長	牧里 每治	関西学院大学人間福祉学部長
副理事長	江守 典子	宝塚市社会教育委員会議の議長
副理事長	遠座 俊明	大阪ガス株式会社
理事	名取 千里	株式会社ティーオー工一 常務取締役
理事	鶴丸 恰二	高齢者問題を考え行動する会 代表
理事	野尻 俊明	保護司
理事	西岡 輝子	宝塚市身体障害者福祉団体連合会 宝塚リハビリ友の会
理事	高松 泰子	特定非営利活動法人 めふのお家 理事 若年認知症支援連絡会 ひよこの会
理事	中山 光子	認定NPO法人 宝塚NPOセンター 事務局長
理事	橋田 てつ子	認定NPO法人 宝塚NPOセンター
監事	福間 則博	弁護士
監事	森田 義	公認会計士・税理士

職員

中山 光子
橋田 てつ子
若林 雄一
山口 耕平
吉野 茂子
小林 浩昭
横山 宗助
上村 敏弘
折戸 政男
山本 千晶
緋本 順子
三原 伸也
高瀬 梓
塩谷 惣太郎
小西 しのぶ

(2014年3月末現在)

認定NPO法人 宝塚NPOセンター

宝塚市栄町2-1-1 ソリオ1-3F

TEL 0797-85-7766

FAX 0797-85-7799

MAIL zukanpo@hnpo.net

URL <http://hnpo.net>